

## 第6学年 総合的な学習の時間指導案

大牟田市羽山台小学校  
教諭 横尾 柚花

### 1 単元名

「大牟田を元気にしよう！羽山っ子スマイルプロジェクト」

### 2 単元の目標

- 自然災害によって起きる各地の豪雨災害の状況や復興への歩みについての理解を図り、自分達  
が知りたい情報について調べ、情報を収集する技能を身に付けることができる。 【知識・技能】
- 豪雨災害について調べたことをまとめ、被害にあった人々や自分達の市を励ますために、自分  
達に今できることを考え、表現することができる。 【思考・判断・表現】
- 豪雨災害の状況や復興への歩みについて意欲的に調べ、主体的に問題解決しようとするこ  
とができる。 【学びに向かう態度】

### 3 単元について

#### (1) 教材観

1学期が始まり、ようやく通常通りの学校生活が戻ってきた7月、大牟田市を豪雨が襲った。これまで災害が少ないと言われていた大牟田市で、数多くの児童が避難する事態に至り、不安な思いのまま、学校で保護者の迎えを待つという経験をする事となった。本校は高台に位置しているため、大きな被害はなかったが、市内の他の地域では、道路や学校の校舎が冠水したり、児童の家が浸水したりする事態になったところもある。そこで、この単元の学習を通して、今回の豪雨災害が大牟田市に与えた被害についてもっと詳しく知り、自分達にできることを考え、大牟田市を励ますために何か行動を起こせないかということを考えさせるためにこの単元を設定した。そして、児童自身が防災を学び、また同じことが起こったときにはどのように行動したらよいかについて主体的に考え、今後の行動に繋げられるようにしたい。また、大牟田市の復興に向けて、これからの街づくりを担う責任感を育て、地域と協力の在り方も考えられるようにしたい。

#### (2) 児童観

本学級の児童は、何事にも一生懸命に取り組もうとする児童が多く、周りの友達のことを思いやることのできる優しい児童も多い。今回の大牟田市の豪雨災害では、多くの児童が不安な夜を過ごしたり、自宅の浸水の片付けを経験したりした児童もいる。しかし、羽山台小学校の地域周辺は、あまり大きな被害があったわけではなかったため、この豪雨災害の被害意識には、個人差があると考えられる。そこで、豪雨災害の被害を自分事として捉え、大牟田市の被害の実態を調べる活動を通して、「自分達に今できることはないか。」「被害にあった大牟田市を励ますためにできることはないか。」について考えるよい機会となると考える。

#### (3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず『課題の設定』の段階において、今回の豪雨での被害を「自分事」として捉えられるようにする。自分達が今豪雨災害について知っていることを出し合い、アンケートの結果やこれまでの経験とのずれから、豪雨災害について調べていくという課題をつ

かませる。次に、『情報の収集』の段階では、豪雨災害の状況や復興への歩みについて情報を集め、被害の実態を捉えられるようにする。その際、「どのような情報を収集するのか。」「どのような方法で収集するとよいか。」等を計画的に考え、情報を集められるようにする。また、実際に被災した大牟田市立みなと小学校の児童とリモートで話ができるように手配し、生の声を聴けるようにすることで、実感を持って豪雨の被害や被害にあった人々が必要としているものを調べられるようにする。情報収集の結果を『整理・分析』する段階では、『情報の収集』の段階で集めた情報を、種類ごとに整理し、比較・分析しながら豪雨災害について捉えられるようにする。最後に、『まとめ・表現』の段階では、調べた情報やそれらをもとに考えた、自分達ができることについて、他者に伝えたり、表現したりする活動を行う。この際、相手意識や目的意識を明確にさせることを意識させることで、伝えたい情報を再構成しながら伝えるための具体的な方法を身に付けることができ、自分自身の考えや新たな課題を自覚することに繋がると考える。そして単元終了後には、大牟田市の未来を担っていく立場として、自覚と責任のある行動をすることが大切であることに気付かせたい。

#### 4 単元の評価基準

ア 知識・技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 学びに向かう力・人間性
① 豪雨災害の状況や復興への歩みについて調べ、観点ごとに大事なことを理解している。	① 豪雨災害の状況や復興への歩みについて、情報を集め、整理・分析したことを工夫してまとめている。 ② 被害にあった人々や自分達の市を励ますために、自分達に今できることを考えている。	① 豪雨災害の状況や復興への歩みについて、進んで調べようとしている。 ② 自分達にできることや励ます方法を進んで考え、主体的に問題解決しようとしている。

#### 5 本単元とESDとの関連

- この題材で働かせるESDの視点（見方・考え方）
  - ・有限性…自然災害に対する人間の知識・能力には限界があること。
  - ・連携性…防災について計画、実践するためには、自分と自分を取り巻く「人」、「自然」、「地域」のつながりが大切であること。
  - ・相互性…豪雨災害で被災した人の身になって物事を考え、自分達にできることはないか考えることができる。また、自分が被害にあっていなくても、地域のつながりを大切にし、お互いに協力する態度を大切にすること。
- この学習を通して育てたいESDの資質・能力
  - ・多面的・総合的に考える力（システムズシンキング）  
今回の豪雨災害の被害や被害を受けた人々の復興への歩み等について調べ、自分達ができることについて考えることができる。
  - ・コミュニケーションを行う力

豪雨災害や私たちにできることについて、調べた内容やインタビュー、G.T.の話等を通して考えたことを、友達や他者に発信できる。

- ・他者と協力する態度（協働的問題解決能力）

被災した人たちに元気を与えられるような企画を、友達と協力しながら考え、作成できる。

- ・繋がりを尊重する態度

防災マップ作成や避難経路の確認は、防災について考えることにも繋がり、これからも大牟田市で安心して暮らしていくための「つなぎ手」として、児童自らが主体的に活動できる。

- この学習を通して育てたい ESD の価値観

- ・世代内の公正…被災した人（「弱い」立場の人）も健康的な生活を送る権利があり、その人達を元気づけることで自分達が少しでも役に立とうとすることが大切である。

- 達成が期待される SDGs 17 の目標

- ・ 3 全ての人々の健康的な生活の確保
- ・ 11 安全かつ強靱で持続可能な人間居住の実現
- ・ 13 気候変動の影響を軽減するための緊急対策

## 6 単元の展開概要（全 12 時間）

学習活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習への教師の支援</li> <li>・ 予想される児童の反応</li> </ul>	○評価
<p>1 大牟田市の豪雨災害について振り返ろう。①</p> <p style="text-align: center;">《課題の設定》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 豪雨災害について知っていることを出し合う。</li> <li>・ 被災当時の大牟田の写真や動画を見る。</li> <li>・ 保護者の経験談を聞く。</li> </ul> <p>2 大牟田市や近隣の熊本県が受けた豪雨災害の実態を調べ、まとめよう。②③④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べる観点ごとにグループに分かれ、豪雨災害について詳しく調べる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【調べる観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大牟田市の被害状況</li> <li>・ みなと小学校の被害状況</li> <li>・ 全国（熊本等）の被害状況</li> <li>・ 復興への歩み 等</li> </ul> </div> <p style="text-align: center;">《情報の収集》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童の「豪雨災害への被害意識」についてのアンケートを取ったり、その時の写真や動画を見せたり、被害にあった児童の保護者に話をしてもらおうよう手配することで、より児童が豪雨災害を自分事として捉えられるようにする。</li> <li>● 調べる観点をいくつかに分けてすることで、豪雨災害についてより詳しく調べられるようにする。</li> </ul>	<p>ウー① （学びに向かう力）</p> <p>アー① （知・技）</p>

<p style="text-align: center;">《整理・分析》</p> <p>3 グループごとに調べた豪雨災害について発表し合おう。⑤⑥</p> <p style="text-align: center;">《まとめ・表現》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれのグループで調べたことを発表する。</li> <li>・全国や大牟田市の豪雨災害について聞き、豪雨災害の全容を大まかに捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● それぞれのグループが調べたことを視覚的に分かるように黒板に整理していくことで、調べたことを比較・分析しながら豪雨災害について捉えられるようにする。また、G.T.の方に発表を聞いてもらい、児童の発表についてコメントをもらうことで、児童の意欲を継続させられるようにする。</li> </ul>	<p>イー① (思・判・表)</p>
<p>4 同じことが起きた時でも、安心して生活するために、今できることを考えよう。⑦⑧</p> <p style="text-align: center;">《課題の設定》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災したみなと小学校の6年生とリモートで繋がり、被害の実態や必要だと感じる物などをインタビューし、被災した人々の思いを知る。 《情報の収集》</li> </ul> <p style="text-align: center;">《整理・分析》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達にできることを考え、出し合う。</li> <li>・活動ごとにグループに分かれ、実施計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「豪雨災害」とは、予測ができないものであることを確認し、そのような豪雨災害がまた起きた時に、安心して生活するためにできないかについて問うことで、自分達にできることを考えられるようにする。</li> <li>● 実際に被災したみなと小学校の6年生と羽山台小学校の児童をリモートで繋げ、インタビューできるようにすることで、実際の豪雨の被害や今必要としているものについて、実感を持って調べられるようにする。</li> </ul>	<p>イー① (思・判・表)</p>
<p>5 被災したみなと小学校や大牟田市を元気にするために、私たちができることを考えよう。⑨⑩⑪</p> <p style="text-align: center;">《まとめ・表現》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番身近な大牟田市やみなと小学校を励ますために、できることを考える。</li> <li>・それぞれの企画グループごとに、企画運営を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 被災した大牟田市の様子やみなと小の児童へのインタビューの内容をもう一度確認させ、何か自分達にできることはないかを問う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・応援旗を作成する。</li> <li>・運動場にメッセージを書き、写真を撮る。</li> <li>・応援歌を作成し、録音する。</li> </ul> </li> <li>● 企画・運営について助言する。</li> </ul>	<p>イー② (思・判・表)</p> <p>ウー② (学びに向かう力)</p>
<p>6 これまでの学習を振り返り、学習をまとめよう。⑫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで自分達が取り組んできた活動をもう一度振り返り、学んだことや感じたこと等を出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 振り返りを書かせ、この学習を通して、自然災害に対する考え方の変化したことや地域や社会、人との繋がりの大切さに気付けたことを称賛し、学習をまとめる。</li> </ul>	<p>ウー② (学びに向かう力)</p>